

(別添資料1)

事業所名

放課後等デイサービスらしさ

支援プログラム

作成日

R7

年

3月

31日

法人（事業所）理念		すべての人が自分らしく生きる社会を					
支援方針		「主体性の発揮」「個性を大切にする」に重点を置き、心身共に『より自分らしい生活』ができるスキルを身につけられるようにする。また、障害特性や学校や家庭での生活も総合的に考えながら、一人ひとりの放課後がより充実したものになるように支援していく。					
営業時間		10 時	0 分から	19 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	全ての利用者が、それぞれの個性や障害特性に合わせて日常生活習慣の確立ができるように支援する。「トイレトレーニング」では、オムツからトイレでの排泄への移行時期のお子様に対して、足台等の環境整備、定時排泄の促し、下半身強化のための運動等を行う。「食事」については、食具の使い方や咀嚼嚥下の見守り支援等、一人ひとりに即した支援をする。「思春期のお子様」については、性の理解や生理の始末の仕方等、きめ細やかに支援していく。					
	運動・感覚	運動機能の向上を目指し、体を使うゲームやダンス、ヨガ、サーキット、ボール遊び等のプログラムを設定していく。手指の巧緻性の向上をねらいとして、工作活動やスライム遊び、洗濯物たたみ、洗濯バサミを使ったゲーム、ボールを掴むゲームや遊び、ビジョントレーニング等を行う。また、一人ひとりの個性に即して、手のひらタッピングや指回し体操、体の弛緩を目的としたキッズヨガなど、リラクゼーションタイムなども取り入れて、緩急あるプログラムで支援をしていく。					
	認知・行動	卒業後の自立を考えて、社会性を養うプログラムやSSTを活用しての支援をしていく。感情のコントロールが課題のお子様については、カードでの感情表現のトレーニングや、認知行動療法を使つての自身の行動理解とコントロールを行うようにしている。また、パズルや絵本等を使って、次の展開を推理する力を養ったり、「こんな時、どうする？」と本人が考えるワークを取り入れることも行う。					
	言語 コミュニケーション	発語があるお子様：言葉を使つてのコミュニケーション能力の向上や、明瞭な発声をねらいとして支援していく。発語器官の向上（口、唇、舌）や、語彙数を増やすこと、話す機会を多く設定すること等。 発語がないお子様：ジェスチャーや発声、その他の手段を用いたコミュニケーション能力の向上を目指していく。シャボン玉遊び、風船ふくらまし、ストロー等で口の機能強化。マカトンサインの習得。絵カードの活用等。					
	人間関係 社会性	人や異性との適切な距離感を学べるような支援をしていく。具体的には、パーソナルスペースの理解や、相手の表情や声のトーンで感情を理解できるよう、絵カードや絵本、声のトーンで感情を当てるゲーム等を設定する。また、思春期のお子様には、異性との関わり方について、プライベートゾーンの理解ができるように支援する。					
家族支援		・らしさの日のイベント開催（卒業後の進路についての座談会、保護者同士の交流）・保護者会や茶話会の実施				移行支援	久我山青光学園、青鳥特別支援学校との連携を密にして、日々のお子様の支援に役立てる。
地域支援・地域連携		地域の相談支援事業所の相談支援員との連携、情報交換				職員の質の向上	知的障がい児の理解、強度行動障害の理解、てんかん発作の対応、SSTの理解、定期的な支援会議の開催、災害時の避難訓練等を毎年行い、資質向上を目指している。
主な行事等		4月職員研修 5月保護者会 6月～個人面談 7月8月プール等夏休みプログラム 10月保護者茶話会 ハロウィンパーティー 11月らしさの日 12月クリスマスパーティー 3月卒業遠足					